



文と萩物語

2014/平成26年

7月15日

平成 27 年の大河ドラマは「花燃ゆ」

萩

7.28 豪雨災害から 1 年



編集・発行／萩市総合政策部広報課
〒758-8555 萩市大字江向510番地
TEL 0838-25-3178 FAX 0838-26-5458
ホームページ <http://www.city.hagi.lg.jp/>



須佐川(須佐総合事務所付近)



市営住宅おそ吹原団地



7.28 豪雨災害から1年

昨年7月28日に萩市東部地域を襲った集中豪雨災害から、まもなく1年となります。当日、須佐では観測史上最大の1時間の最大降水量が138.5mm、また午前9時20分からの3時間雨量が301.5mmを観測し、気象庁から「これまでに経験したことのないような大雨」と発表されるなど記録的な豪雨となりました。

この豪雨災害により、須佐・田万川・むつみ地域では、甚大な被害があり、現在でも仮設住宅で生活を送られている方もおられます。被災の翌日からは、のべ1万人を超えるボランティアの皆さんによる無償の奉仕活動をいただいたことは、復旧への大きな力となりました。

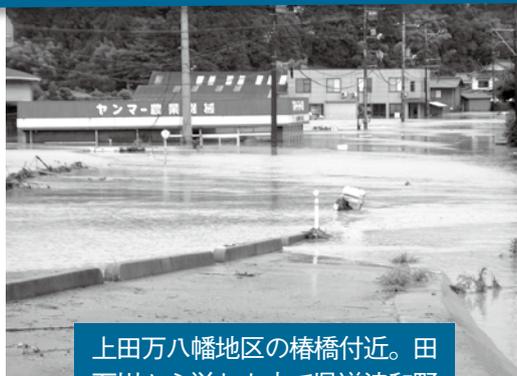
被災地では今も当時の爪痕が残る箇所もありますが、被害のあった道路や河川、農地・農業用施設、公共施設等も本格的な復旧に取り組んでおり、復興に向けて着実に歩みを進めています。

今回の豪雨災害での教訓を今後の防災体制の整備に生かし、災害に強い、市民が安全・安心に暮らせるまちづくりに取り組んでいきます。

写真で振り返る7月28日の豪雨災害



小川支所から見た旧小川中学校周辺。原中川と田万川に囲まれた一帯は冠水した(午後1時頃)



上田万八幡地区の椿橋付近。田万川から溢れた水で県道津和野田万川線も冠水(午後3時頃)



須佐トンネルの西側の国道191号と交差する長谷川が溢れてトンネルへ流れ込んだ(午後5時頃)



弥富地区を流れる田万川も氾濫。橋を超えて流れた濁流により欄干も壊れた(正午頃)

合併後新市の最大の試練となった集中豪雨被災から間もなく1年が経過しようとしている。わずか3時間という短い間に300mmを超える豪雨、しかも局地的、突発的な集中豪雨。2人の方の命を奪い、1人は今なお行方不明、家屋の被害は1100棟を超える。改めて被災された方々にお見舞い申し上げます。被災地の方々とともに一日も早い復旧復興に努めることに決意を新たにします。

被災後、他の自治体からの応援を受けながら市職員一丸となつて被災した上下水道施設、小中学校等の公共施設の復旧を行うとともに、合併後新市の最大の試練となった集中豪雨被災から間もなく1年が経過しようとしている。わずか3時間という短い間に300mmを超える豪雨、しかも局地的、突発的な集中豪雨。2人の方の命を奪い、1人は今なお行方不明、家屋の被害は1100棟を超える。改めて被災された方々にお見舞い申し上げます。被災地の方々とともに一日も早い復旧復興に努めることに決意を新たにします。

被災後、他の自治体からの応援を受けながら市職員一丸となつて被災した上下水道施設、小中学校等の公共施設の復旧を行うとともに、合併後新市の最大の試練となった集中豪雨被災から間もなく1年が経過しようとしている。わずか3時間という短い間に300mmを超える豪雨、しかも局地的、突発的な集中豪雨。2人の方の命を奪い、1人は今なお行方不明、家屋の被害は1100棟を超える。改めて被災された方々にお見舞い申し上げます。被災地の方々とともに一日も早い復旧復興に努めることに決意を新たにします。

萩市長 野村興兒

一日も早い、復旧・復興へ向けて 力を合わせて取り組んでいます



大雨が止んだ後もむつみ保育園横の蔵目喜川(吉部上)は濁流が流れている(正午頃)

主な被害の状況

(平成25年9月時点)

- ▼人的被害
死者2人、行方不明者1人、負傷者5人

▶住宅被害(住家のみ) (単位:世帯)

区分	須佐	田万川	むつみ	合計
全壊	10	9	1	20
大規模半壊	30	27	0	57
半壊	224	143	13	380
床下浸水	169	130	47	346
合計	433	309	61	803

(平成26年3月31日現在、義援金配分対象となった世帯。複数世帯同居は1世帯とみなす)

- ▼避難状況
避難勧告(最大時)

- 4521世帯9834人(須佐・田万川・むつみ地域、大井)
- 避難人数(最大時) 約500人
- ▼農林漁・商工業被害
 - 農作物被害 約3億1000万円
 - 農地・農業用施設 約39億6800万円
 - 畜産被害 約1000万円
 - 林道被害 約1億6500万円
 - 治山被害 約12億円(100カ所)
 - 水産業被害(市管理) 約9000万円
 - 商工業被害(民間) 70社以上、約11億円
- ▼市土木施設被害(道路172カ所、河川106カ所、橋梁4カ所) 約50億円
- ▼市水道施設被害 約1億9000万円
- ▼市下水道施設・集落排水処理施設等被害 約5億4000万円
- ▼市公共施設等被害 39施設(小川支所、市営住宅等) 約9億4000万円
- ◎保健福祉施設
 - 田万川保育園小川分園、須佐保育園(移転新築)、小川児童クラブ(小川コミュニティセンター内、8月19日から小川小学校で仮設再開)、育英児童クラブ(育英小学校内、8月19日から再開)、須佐保健センター(現在は復旧)等

- ◎社会教育施設
 - 須佐公民館、須佐図書館、須佐歴史民俗資料館(床上浸水等の被害)
- ◎文教施設
 - 小川小学校、育英小学校(校舎、屋内運動場床上浸水等の被害)、多磨小学校、田万川中学校(法面崩落被害)、須佐田万川学校給食共同調理場(床上浸水、配送車2台破損等)
- ◎文化財施設
 - 市指定有形文化財「益田館」水没
 - 県指定史跡「須佐唐津古窯跡群」一部崩壊
 - ▼保健福祉施設(民間分)
 - 特別養護老人ホーム阿北苑(床上浸水、土砂流入ほか。利用者52人、職員5人をへりて搬送)、特別養護老人ホームすさ苑、EGF小川事業所、EGF江崎事業所(床上浸水ほか)等

豪雨災害の経験を教訓に! 7月28日萩市民防災の日 防災講演会

7月28日は、「萩市民防災の日」です。これは、昨年7月28日の萩市東部集中豪雨で、未曾有の被害があったことから、この災害の経験と教訓を風化させることなく後世に継承し、市民一人ひとりが自然災害について防災意識を高めるために、今年3月に制定しました。

- また、須佐・田万川地域に甚大な被害をもたらした「昭和58年山陰豪雨」が起きた7月23日から29日までの1週間を「萩市民防災週間」として、萩市全体で防災意識の普及啓発を図ります。
- 今年、被災地だった田万川地域で、下関地方気象台長の講演や
- 活動事例発表などを行います。
- とき 7月28日(月) 午後1時～3時
- ところ 田万川コミュニティセンター(江崎)
- 内容
 - ▽7・28萩市東部集中豪雨スライド・解説
 - ▽開会行事
 - ▽講演会(下関地方気象台長、午後1時35分～2時15分)
 - ▽ボランティア活動事例発表(萩市社会福祉協議会、午後2時20分～3時)
- 参加料 無料
- 問い合わせ 防災安全課(25・3808)

災害復旧・復興のあゆみ

■復旧・復興の記録

月 日	内 容
7月28日	萩市災害対策本部設置 災害救助法、被災者生活再建支援法の適用
29日	本庁に総合相談窓口開設
//	電気の復旧（午後7時53分）
//	災害ごみを須佐グラウンドに搬入開始
30日	萩市災害ボランティアセンター設置 （市、萩市社会福祉協議会ほか）
8月5日	萩市集中豪雨災害救援義援金募集委員会設立、 6日から義援金受付開始
6日	小川小学校・須佐総合事務所に総合相談窓口 設置（～8月16日）
7日	田万川総合事務所に総合相談窓口設置 （～8月16日）
//	水道の復旧（午後7時）最大1500世帯3000人が 断水
9日	電話の復旧（午後1時）
//	下水道の復旧（午後1時50分）
12日	須佐保育園送迎バスによる田万川保育園本園で 合同保育開始
15日	小川小学校に小川支所仮事務所開設 激甚災害特別財政援助法の指定
19日	田万川保育園小川分園送迎バスによる田万川保 育園本園で合同保育開始（1月に復旧・再開）
20日	高岩橋（小川地区）の復旧
27日	中島剛氏 復興祈念ピアノコンサートを開催 （須佐文化センター、約150人参加）
9月1日	萩市生活応援センターの設置（萩市社会福祉協 議会） ※9月17日災害復興局内へ移設
17日	須佐総合事務所に災害復興局を設置 被災者総合相談窓口の設置
22日	仮設住宅入居開始（3カ所、32世帯77人）
27日	萩市集中豪雨災害救援義援金1次配分開始 （12月2次配分、平成26年5月最終配分）
10月6日	がんばろう須佐 田万川 復興支援祭を開催 （道の駅ゆとりパークたまがわ）
11月4日	第1回五縁まつりを開催（小川小学校）
9日	JR山陰線（須佐駅～益田駅）開通 ※奈古駅～須佐駅は代行輸送（8月中に再開予定）
12月8日	田万川・復興のつどいを開催 （田万川コミュニティセンター） 復興祈念スローガンを発表
20日	国の災害査定が終了（公共土木施設災害査定） ※12月13日には農地・農業用施設災害査定が終了
1月31日	田万川地域 市営住宅復旧（大沢10戸、八幡2戸、 三明4戸、おそ吹原12戸）
2月28日	須佐地域 市営住宅復旧（中津第1団地16戸、 山根丁東20戸、浦東12戸）
4月19日	復興応援フラメンコライブを開催 （田万川コミュニティセンター）
6月22日	田万川・むつみ・須佐地域避難訓練、 萩市災害対策本部図上訓練を実施（6ページ参照）



災害ごみ仮置場として利用した須佐グラウンド。現在は8月中の復旧に向け整備中（昨年状況）



旧奈古高校須佐分校

仮設住宅は、須佐地域（旧県立奈古高校須佐分校）11戸、江崎地区（田万川コミュニティセンター）17戸、小川地区（下小川ふれあいセンター）12戸整備。現在でも、13世帯28人の方が入居（平成26年5月末）



復旧・復興、被災者生活再建支援を一元的に推進するため、災害復興局を新設

「五縁まつり」で、ボランティアへの感謝の気持ちと地域が頑張っている様子を発信。活動の様子の上映会では涙された方も



被災地の小中学生から「復興祈念スローガン」を募集。一日も早い復興を目指して、「復興はみんなの笑顔がエネルギー」の気持ちで取り組みます

復旧・復興も着実に進んでいます

道路・農地等の復旧工事

国の補助を受けて行う、公共土木施設、農地・農業用施設の災害復旧工事は、7月中には大半の発注が終わる予定です。

小規模な復旧工事は、今後順次発注を行います。国や県との調整が必要なものを除き、工事が順調に進めば、来年の春までには復旧工事はおおむね完了する見込みです。

公共施設等の復旧工事

小川地区や須佐地区では多くの公共施設でも被害がありました。

復旧が困難な萩市小川支所や小川コミュニティセンター、田万川第2分団消防器庫等については、小川地区内の安全な場所に移転して一体化した複合施設として整備します。鉄

骨造2階建、瓦葺きに外壁は杉板張り、内部にはエレベーターも設置されます。

現在、造成工事が行われており、10月から建設工事に着手、平成27年7月28日の竣工を目指しています。

同じく、須佐川の氾濫により大きな被害を受けた須佐保育園も、高台の旧奈古高校須佐分校グラウンドへの移転を決定し、来春行われる平成26年度卒園式を、新保育園舎で開催できるように整備を進めています。木造平屋建、約492㎡の保育園となります。

この小川コミュニティセンターと須佐保育園については、災害復興のシンボリックな事業として整備を進めていきます。

また、災害ごみの仮置場となつて

いた須佐グラウンドは、2月末に搬入を閉鎖し、復旧のための整地工事を進めており、8月中旬から利用できる予定です。

国道191号の復旧・改修工事

須佐地域内の国道191号の復旧、改修については、現在、片側交互通行となっている国道191号の須佐トンネル北側登坂車線の復旧、

中津橋の架け替えに伴う迂回路の整備、長谷川の函渠改修工事（須佐トンネル西側付近）を行う予定です。

須佐トンネル北側登坂車線の復旧については、今年の益前までには復旧する見通しです。益明けから本格的に長谷川の函渠改修工事（片側交互通行で10月中旬頃に解除予定）に着手し、11月末頃に工事が完了する

予定です。

また、中津橋付近では一部歩道がなく危険な状況のため、対策として自転車歩行者道整備を行うことに併せて、須佐川の河川改修に伴う中津橋の架け替えを予定しています。これから測量に入り、事業環境が整い次第、平成27年度以降に工事着手する予定です。

須佐川・田万川の改修工事

今回の豪雨災害で発生したような浸水被害を防止するため、河床掘削や橋梁の架け替え、護岸整備等を行うことで、洪水の流水能力を向上させることを目的に、山口県が国土交通省や市と連携して、須佐川と田万川の河川改修を実施します。

◎須佐川（全延長11.3km）

須佐川下流では「広域河川改修事業」を、須佐川上流と唐津川では、新たな災害を防止するため、復旧工事に併せて未被害箇所改良を行う「河川災害関連事業」を実施します。

▽事業期間 平成25～32年度（予定）

◎田万川（全延長11.6・4km）

下流から上流に向け、「河川災害復旧等関連緊急事業」「広域河川改修事業」「河川災害関連事業」「原中川・大江後川河川災害関連事業」により改修を実施します。

▽事業期間 平成25～29年度（予定）

■土木・農地等災害復旧工事の進捗状況(補助事業)

区分	全体件数	契約済数	契約率
公共土木施設	270件	267件	98.9%
農地・農業用施設	475件	454件	95.6%
林業施設	18件	18件	100.0%
治山事業	28件	24件	85.7%

(平成26年7月11日見込み)

■主な災害復旧工事の進捗状況(補助事業)

区分	全体件数	契約済数	契約率
水産業施設	3件	3件	100.0%
市営住宅	9件	9件	100.0%
小学校施設	23件	23件	100.0%
簡易水道施設	10件	8件	80.0%
公共下水道施設	11件	11件	100.0%
農業集落排水施設	9件	9件	100.0%

(平成26年5月1日現在)



小川支所・小川コミュニティセンター(イメージ図)
※県道益田阿武線と県道弥富小川線が合流する場所(三明地区横畠)に建設



須佐保育園(イメージ図)

豪雨災害を想定

被災地で避難訓練を行いました



避難訓練（須佐公民館）



避難訓練（小川小学校）



避難訓練（むつみコミュニティセンター）

6月22日に、萩市民防災の日の関連行事として、災害の発生が予測される状況で迅速・安全に避難行動をとることができるよう、被災した須佐・田万川・むつみ地域の住民を対象とした避難訓練を行いました。

訓練には、3地域の住民や消防団員など約421人が参加。豪雨による河川の氾濫という想定のもと、防災無線による避難勧告の伝達や消防団員による誘導、避難所の開設などを行いました。

また、午後からは災害への対応力の確認・向上や、情報共有等を目的とした図上訓練を市役所で初めて実施しました。市の災害対策本部長や警察署員など114人が参加、指揮・対策担当や情報整理担当等の役割により実践的に訓練、情報収集手順や



図上訓練

避難勧告のタイミングなどを確認しました。

この訓練をもとに、万が一災害が起こった時は、よりの確に避難や情報のスムーズな伝達が行えるように、今後も防災対策に取り組みます。

復旧工事に伴う大型ダンプの通行にご理解ください



発注者プレート

災害復旧の本格工事が始まり、市内の道路では大型ダンプトラックの通行が多くなりました。

大型ダンプトラックの通行については、山口県萩土木建築事務所と萩市災害復興局が連携し、工事関係者に交通マナーや、地域住民に十分配慮した安全運転を心がけるよう指導

徹底していきますので、ご理解とご協力をお願いします。

なお、トラックには運転席の前面と背面に工事発注者が分かるよう色で区別したプレート等を表示していただきますので、お気づきのことがありましたらご連絡ください。

■発注者別のプレート色

萩土木建築事務所Ⅱ黄色、萩市（土木発注工事）Ⅱ青色、（農林発注工事）Ⅱ赤色

■連絡先

▽萩土木建築事務所

（22・0043）

▽萩市災害復興局

・都市基盤復興事業部Ⅱ土木発注工事（08387・6・2215）

・産業再生事業部Ⅱ農林発注工事（08387・6・2217）

「被災地域のために頑張りたい」と決意

地域生活サポーターを田万川地域に設置



〔左から〕原宏子さん、水津光恵さん、委嘱状を交付する和田副市長

過疎化や超高齢化により多くの課題を抱える中、地域が一体となり、住民自らが地域課題に応じた

取り組みを展開できるよう、また、被災地域の復興支援を兼ねて、田万川地域をモデル地区として、「地域生活サポーター」を設置し、嘱託職員として、原宏子さん（江崎）と水津光恵さん（中小川）を委嘱しました。

地域生活サポーターは、7月1日から来年3月31日までの任期で、田万川総合事務所を拠点に、地域の話し合い活動の推進や、各種団体や関係機関との連携により、高齢者の生活支援や地域づくり活動の支援などに取り組みます。